

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年2月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1592300048
法人名	株式会社 ぶなの木
事業所名	グループホームぶなの木
所在地	新潟県魚沼市井口新田673-1 (電話) 025-792-7007

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 19年 12月 10日

【情報提供票より】(19年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	20人	常勤	4人、非常勤 16人、常勤換算 10.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階 建ての 1階 ~ 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000~45,000円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有	無
食材料費	朝食 250円	昼食 300円		
	夕食 300円	おやつ 50円		
	または1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (19年 11月現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	0名	要介護2		9名	
要介護3	5名	要介護4		3名	
要介護5	1名	要支援2		0名	
年齢	平均 82.2歳	最低	69歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ほんだ病院 かみむら歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年3月に開設されたばかりのホームである。新築で、玄関を入ると木の香りが心地よく、ホームの中も迎えてくれた職員も明るく、穏やかな空間の中でゆったりとした時間が流れている。開設者は、地元で長年建設業を営んでおり地域の信頼も厚く、社会貢献がしたいという思いからホームを開設した。介護事業は初めてであるが、高齢者介護に対する熱意と、職員の様子を見ながら管理者と連携して適宜面談を実施するなど、細やかな心配りでホームの運営に取り組んでいる。日頃から職員が気づきや意見を自由に言える雰囲気がつくられており、管理者を中心にユニットごとに或いは全職員で話し合いを重ねながら運営や日々のケアに反映させるなど、サービス向上に前向きに取り組んでいる。利用者一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、「絵を描きたい」「縫い物が得意」「親戚に贈り物をしたい」「銀行へ行きたい」等々の思いや意向を大切に、その人らしい暮らしが継続できるよう家族の協力を得ながら支援している。また、協力病院・協力歯科医院の往診もあり、訪問看護ステーションと連携して24時間対応体制がつけられていることも利用者・家族の安心につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初回の外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニットごとに職員が話し合いながら自己評価を行った。時間がかかったが、開設後を振り返り、日々行っていることの確認ができてよかったと受け止めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月ごとに地域の代表、民生委員、利用者・家族の代表、市の担当者、包括支援センター職員等を構成メンバーに運営推進会議を開催している。現時点ではホームを知ってもらおうという段階であり、ホーム側からの報告が主であるが、今後は自己評価や外部評価の結果報告を行ない、ケアの質を高めるための話し合いを行っていく予定である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族等の面会が多く、利用者の様子や状態などは、面会時に直接伝えて話し合う機会をもっている。家族との話し合いの中で職員が苦情と受けとめたものは管理者に伝えるとともに、記録で共有して改善に努めている。家族が意見や苦情を言いやすいように、ホーム内部及び外部機関の苦情・相談受付窓口を契約書等に明示しており、意見箱も設置している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩等の際には近所の人達に積極的に挨拶をするほか、ホームの畑でとれた野菜を近所におすそわけしたり、神社の祭に参加するなど、地域の一員として積極的に関わりを持つよう努めている。地域のボランティアからも、踊り等の発表の場としてホームに来てもらっている。夏には、地域にも呼びかけてホームの庭で納涼祭を行ったところ、家族や地域の方々も含めて60人以上の方々が集まった。今後は非常災害時の避難拠点として地域の人達にホームを活用してもらいたい意向である。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設前に、事業所の代表と管理者、計画作成担当者等、中心になる職員で話し合いを重ね、「1.笑顔」「2.満足」「3.まごころ」を3本柱とした理念をつくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設前の研修で、職員全員が理念について話し合う機会をつくり、理念を共有している。事務所やホームごとの掲示板上に掲示し、日々の生活の中で確認したり、理念にそぐわないことがある時は指摘しあっている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	パンフレットに記載するとともに、理念や一日の過ごし方などを明確にした小型のリーフレットを作成して、家族や見学に来られた方に配布している。		ホームに来られた方だけでなく、地域の方々にも理解してもらうために、地域の集まりで話をする機会や、理念を明示したホーム便りを配布するなど、更に積極的にホームの理念や役割を発信する姿勢を持っていただくことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩等の際には近所の人達に積極的に挨拶をするほか、ホームの畑でとれた野菜を近所におすそわけしたり、近くの神社の祭に参加するなど、地域の一員として積極的に関わりを持つよう努めている。夏には、地域にも呼びかけて納涼祭を行い、地域や家族等も含めて約60人が集まった。		回覧板等で地域の情報を教えてもらったり、地域の行事により参加しやすくするためにも、今後、地域の一員として町内会にも加入してはどうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めてのサービス評価であり、ユニットごとに職員が話し合いながら自己評価を行った。時間がかかったが、開設後を振り返り、日々行っていることの確認ができてよかったと受け止めている。		今後、自己評価と外部評価の結果について話し合い、サービスの質をより高めるための具体案の検討や実践につなげることが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに地域の代表、民生委員、利用者・家族の代表、市の担当者、包括支援センター職員等を構成メンバーに開催されている。現時点ではホームを知ってもらうという段階で、ホーム側からの報告が主であるが、今後は自己評価や外部評価の結果報告をし、ケアの質を高めるための話し合いを行っていく予定である。		今後さらに、地域の中でホームの理解を深めてもらったり、交流が活発に行われるようになるためのパイプ役として、また、サービスの質の向上にむけて積極的な意見交換を行なうなど、運営推進会議をよりいっそう活用してほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する地域ケア会議、地域密着型サービス事業所のみが集まる区分別会議に参加し、利用者のケアについての研修や情報交換を行っている。また、地域包括支援センターとはメールや電話でわからないことを聞いたり、情報交換など常に連絡をとっている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者をはじめ、ケアの中心となる職員3名が市の虐待防止の研修会に参加し、その時資料として使われた小冊子を職員全員に配布した。虐待が疑われる場合は管理者に報告することとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来られた時、利用者の日頃の様子や状態なども話している。急ぎの時は、電話で連絡している。また、年3回発行するホームだよりで個別の通信欄をつくり、個別の連絡事項や日常の様子を記入して送っている。		現在行っていることのほかに、例えば請求書の送付時などを利用して、定期的に日常の様子や金銭の使用状況などを報告する方法を検討してほしい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内部及び外部の苦情・相談受け付け窓口を明示しており、玄関付近に意見箱も設置している。また、家族等との話の中で苦情と受け止めたものについては、記録して職員で共有し、改善に努めている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議をはじめ、日常的に職員と管理者とが何でも言い合える雰囲気づくりに努めている。開設前から職員の意見や提案を取り入れ、花壇や畑づくり等を行っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時に職員間や利用者との相性などを考慮してユニットを編成しており、離職はほとんどない。交代がある場合は、実習を兼ねた引継ぎ期間を設け、前の職員と同じやり方を引き継いで、利用者への支援が途切れないよう配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	入浴、排泄、食事等の介護マニュアルをはじめ、感染予防や事故防止マニュアル等を整備し、職員がいつでも確認できるよう各ユニットでファイルしている。不足があった時には適宜見直ししている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員会議の際にテーマを決めて内部研修を行っている。また、市が実施する研修会の案内があった時には必ず参加し、報告書で職員全員に伝達している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会や、市が主催する地域密着型サービス事業所の会議に参加し、事例検討や情報交換を行っている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニットごとに職員休憩室のほか、喫煙室を1箇所設けている。職員の様子を見ながら、管理者や代表が適宜直接面談をして悩みなど話を聞いている。また、年3回程度、気分転換や交流のための親睦会を行っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームに来てもらって共に時間を過ごしたり、職員が何回か訪問するなどして顔なじみになってもらい、本人が納得した上での入居としている。また、本人が使っていた食器や家具、仏壇なども持ってきてもらうことで、安心できる環境づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、その方が一番生き生きしていた時代を思い出してもらうような会話の時間をもち、その会話から得意なことや好きなことを見つけている。そこから得た情報をもとに、料理や看板づくり、絵画、畑仕事などを職員と共に行っている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の好きなことや思いを実現するために、家族が面会に来たときなどに相談し、協力関係をつくるよう努めている。家族の協力を得て、自宅に行って絵画を描くことを日課にしている方もおられる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を日常生活の中から聞きとり、可能な限りそれが実現できるよう、また今までの生活の中で築いてきた地域との関係が途切れないように支援している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント様式は、MDS方式と一部センター方式を使用し、本人や家族から話を聞いたり、日常生活の様子の中から把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、本人・家族の要望を聞きとったり、日々の関わりの中から利用者の言葉や思いを拾い上げるよう努め、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間は1年と設定している。調査時点では開設してから1年未満であり、定期的な見直しはこれから実施していくところであった。入院して退院した方がおられ、状態が入院前とかわっていないとのことであったが、アセスメントや担当者会議の記録が確認できなかった。		入退院等があった場合、身体的な状態変化のほか、環境の変化による利用者への影響等にも考慮し、退院後のアセスメントや検討を十分に行なうことが望まれる。また、その結果は、家族や職員間での情報共有、ケアへの活用のため、記録に残すことが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態や家族の事情に応じて、職員が受診の送迎・付き添いを行なっている。また、訪問看護ステーションと連携して24時間対応体制がとられており、協力医療機関の往診も行なわれていることも利用者や家族の安心につながっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診している。基本的には、家族に受診の同行をしてもらうことになっているが、本人の状態や家族の事情に応じてホーム職員が受診に付き添っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、協力病院の関連施設で受け入れてくれるよう連携がとれている。入退院の際は、その都度家族とよく話し合っており、重度化した場合についても方針を共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	以前、家族に声かけの時の配慮がたりない旨の指摘をされたことがあり、そのことを記録で共有し、以後プライバシーに配慮した声かけをするよう職員間で意識している。記録等個人情報は、ユニットごとに鍵のかかる保管庫に保管するなど取り扱いに注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間は一応決まっているが、一人ひとりのペースを優先している。銀行に行きたい、親戚に贈り物をしたいなど要望によるの外出支援や、自分の繕い物・ズボンのすそ上げなど、本人がやりたいことを行えるように見守りや支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でとれた野菜を使うなど、旬のものを中心に献立をつくっているが、食材は業者が搬入している。食事は利用者と職員と一緒にしている。準備や後片付けについては自分の仕事として積極的に行なう利用者もいる。		利用者が主体的に準備や後片付け等に参加しようと思えるような支援の工夫に期待したい。また、スーパーが近くにあるので、月に1回程度であっても、できるだけ食材の買い物に出かけるなど、利用者が食事に関する楽しみがもてるような工夫が期待される。
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄時間のチェックにより、排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。紙おむつやりハジリパンツだったが、布パンツの使用に移行した利用者もいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットごとに浴槽の形態が異なり、身体レベルに応じて選択することも可能である。土曜・平日の午後を入浴時間とし、希望も聞きながら入浴している。日曜日は、面会が多かったり、職員配置が平日に比べて少ないこともあって、入浴を休みとしている。		機会あるごとに利用者の希望を確認し、毎日の入浴や午前・夜間入浴などのニーズを掘り起こす働きかけを続けていくことを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	山菜の調理や食器洗いなどの家事、畑仕事など一人ひとりにあった役割を見つけている。また、地域の方々に歌や踊りのボランティアに来ていただくよう働きかけたり、利用者自ら大正琴などを披露してもらう機会をつくっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は、畑の様子を見に外に出かけて近くを散歩したり、銀行に行きたい、家で絵を描きたいなどという個別の希望にもできるだけ対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料を職員間で回覧し、ミーティングなどで身体拘束についての理解の共有を図っている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしていない。利用者の安全のため、各ユニットの玄関とエレベーターにセンサーを使い、人の出入りをチャイムの音で察知している。利用者が一人で出かけようとする時でも、止めるのではなく、さりげなく声かけしたり、場合によっては一緒についていくなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に関するマニュアルを整備している。ヒヤリハット・事故報告書の様式があり、事故等があると即日にユニットごとで改善策を話し合い、ユニット間で内容を共有している。		さらなる事故防止につなげるよう、改善策が再発防止につながっているかどうか定期的に検証を行うことが期待される。また、ヒヤリハット報告書と事故報告書が混ざってファイリングされているが、見やすく活用しやすいよう分けてファイルしてはどうか。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	開設前に全員が救急法の講習を受講したが、その後定期的な訓練は行われていない。現在AEDの導入を検討している。		夜間帯は夜勤職員のみで、夕食と朝食時もユニットごとに1名であることから、急変や事故発生時の応急手当の方法を各自が身につけられるよう、計画的に訓練を実施してほしい。定期的に繰り返し訓練することで緊急時にも対応できるようになると考えられる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	2ヶ月に1回、夜間を想定した避難訓練と、年2回消防署の協力による消防訓練を実施している。非常食、カセットコンロ、カイロなど、食材や備品の備えもあり、職員の防災意識も高い。		今後は、災害時に地域の協力をどのように得ていくか、運営推進会議等を通じて検討することが期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	在宅栄養士から定期的に献立をみてもらい、栄養面のアドバイスをもらったり、献立の相談にのってもらっている。日々の食事・水分量は一人ひとりおおまかに把握しており、普段と様子が違う時は、チェック表をつけて訪問看護師やかかりつけ医に相談し、必要に応じて補助食で補うなど体調管理に配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じさせる飾り付けが各所にほどこされ、居間は日あたりよく、利用者が自然に集まって過ごされている。2階は防音効果を考慮したクッション性のある床で、1階への音が響かないよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた時計や小物、タンス等を持ち込んだり、使いやすいように本人の希望をふまえた家具の配置にし、居心地よい居室づくりの工夫をしている。仏壇を持ち込んでいる方もおられる。		